

NPO法人 いわて森林再生研究会

「森林の荒廃は人々が山に入って木を伐らなくなったから。人と山との関係が希薄になってしまった」との認識から発足した「いわて森林再生研究会」は、森作りのための人材養成に努め、森林を管理する技術の研鑽・継承を行っています。

チェーンソーの訓練



「いわて森林再生研究会」は、地元の放送会社に勤めていた斎藤文男氏が「森林の荒廃は、人が山に入って木を伐らなくなったから。人々の暮らしと山との関係がこれほど希薄になったのは、日本列島に人が住むようになって以来の異変ではないか」と考え、森林づくりの



伐倒作業

知識と技術を持った森林ボランティア団体をめざして二〇〇三年に設立した団体です。発足時は会員数二十六人、活動延べ参加者二百九十人で、二杉の森林で間伐を行うといったささやかな活動でしたが、森林ボランティア講座を開いて人材の養成・確保に努めた



〈写真上〉材積調査の実習
 〈写真下〉室内での講義



技術を持った人材を育成

ところ、発足して六年目の二〇〇八年には会員数百六十二人、延べ千三百三十六人が参加するようになり、手入れ不足で荒れた森林の再生に大きな戦力となっています。

いわて森林再生研究会は、人材の育成を基本中の基本と位置づけ、徹底して技術の向上に努めています。盛岡市内の森林所有者から五ヶ所のスギ林を「研修林」として借り受け、一年間、チェーンソーや刈払機の実地

訓練をくり返し行い、荒れている森林を活力ある森林に育てるボランティアを養成しています。

昨年は「森林ボランティア講座」を二十一回行い、五十六人の受講者が森林づくりの基礎知識や安全な作業技術を習得し、このうち四〇人が現在、ボランティアとして森林づくりに活躍しています。

研修は一人の講師が三人の受講者に対し、林内作業の基礎から伐倒までを繰り返し指導します。伐倒の際の受け口の作り方や伐倒する方向の決定、立木にかかった伐倒木の処理方法などを具体的に会得するまで何度も繰り返し練習します。

こうした地道な活動は、林業と疎遠となっていた森林所有者を目標めさせる効果もあるようで、研修を受けて自ら所有する森林の整備に励む人達が年々増えています。

また、移動式の小型製材機を山元の土場に運び入れ製材したり、炭窯を築いて木炭を作ることもあり、利用可能な間伐材や除伐した広葉樹等は極力利用するよう配慮しています。



いわて森林再生研究会のみなさん

NPO法人 いわて森林再生研究会

代表者名：代表 齋藤文男氏
 〒020-0113
 岩手県盛岡市上田堤 1-13-7
 TEL & FAX 019-663-1547
 2003年3月25日設立
 2008年会員162人
 活動日数延べ132日
 参加者延べ1,336人